



長期留学

交換留学

学生交換協定を結ぶ大学に1学期間(半年)~2学期間(1年)留学します。 **留学先:協定校**

交換留学は、本学と学生交換の協定を交わしている大学に留学し、正規課程で1学期間(半年)または2学期間(1年)学ぶ留学制度です。留学中も在学年数に数えられるため、4年間での卒業も可能です。語学留学とは異なり、留学先では現地学生と一緒に単位修得をめざして正規科目を履修するため、留学前に留学先大学の語学要件を満たしておく必要があります。留学先で修得した単位は所属学部が承認した場合、本学の単位として認定されます。また、本学の留学生奨学金制度に申請できます。

協定留学(私費)

国際交流協定により有料で協定校に1学期間(半年)~2学期間(1年)留学します。 **留学先:協定校**

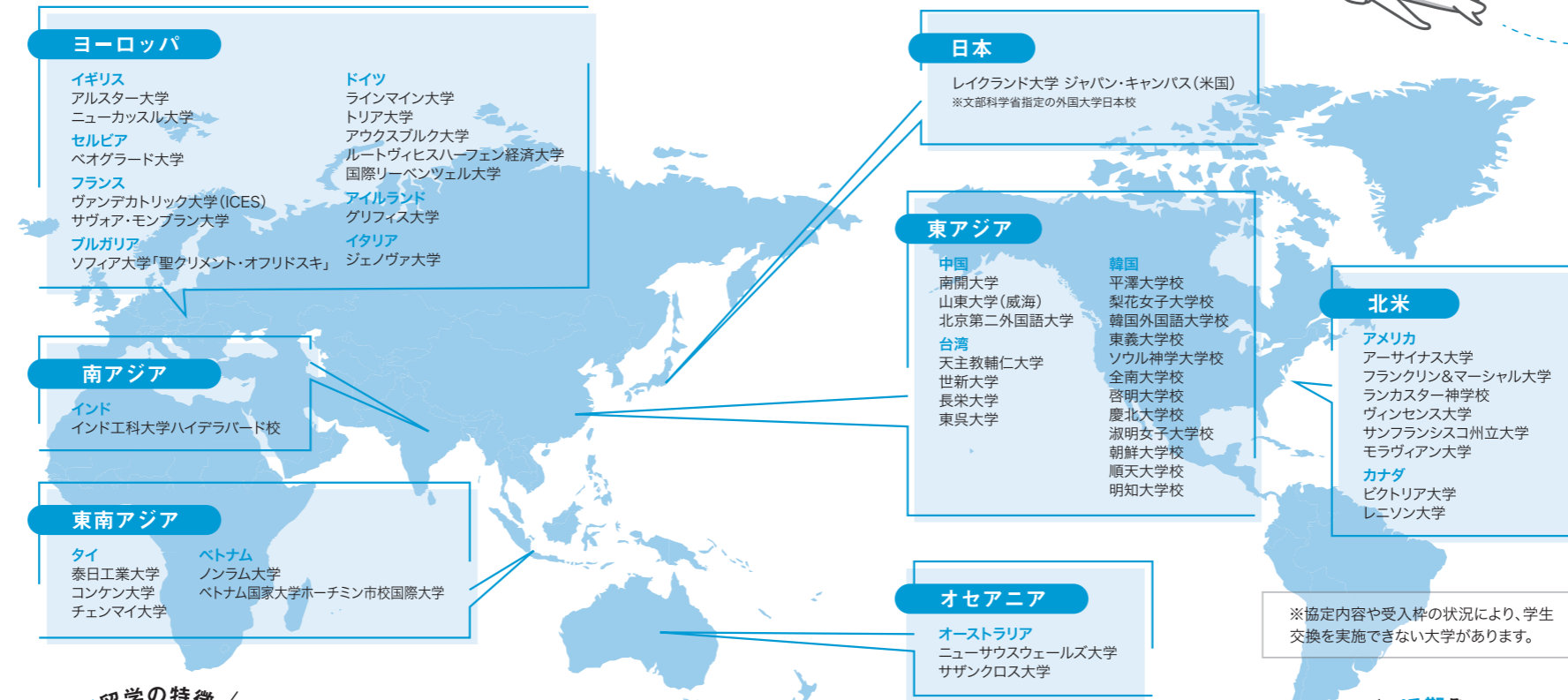
認定留学

協定校以外で本学が認定留学先と認める大学に1学期間(半年)~2学期間(1年)留学します。

留学先:本学が留学先と認める大学

留学期間は在学扱いとなり休学にはなりません。単位認定制度や本学の奨学金制度に申請することができます。

世界各地の国際交流協定締結大学



短期留学

夏休みや春休み期間を利用し、各国の協定校や大学、語学学校で語学・文化を体験。

短期留学には、協定校プログラムと本学×旅行会社のプログラムがあります。どちらも語学研修や文化体験、異文化交流など短期間でも充実した体験ができ、毎年多くの学生が参加しています。ほとんどのプログラムで語学要件などがなく、気軽に参加できるのも魅力です。また条件により単位認定されるプログラムもあります。本学×旅行会社のプログラムはいろいろな国の大学や語学学校などで、各自に合ったレベルの国際クラスに入り世界の留学生たちと一緒に学びます。実践的な体験を中心としたスタディツアーもあります。

協定校短期留学

協定校のオリジナルプログラムで、各国の言語、文化および歴史などを学び、現地学生との交流や自主研修を行います。条件により、単位が認定されます。

留学先:協定校

旅行会社の短期留学

集中して語学を学んだり、異文化交流、ボランティアやインターンシップなどの体験ができます。

留学先:協定校以外の大学・語学学校など

長期留学の特徴

- 留学期間は2種類
1年 半年
- 留学期間は在学扱い
- 一定の条件があるので注意!
在学年数 語学要件

短期留学の特徴

- 語学条件がないものが多い
- 協定校短期留学は条件により単位が認定される
- 協定校以外のプログラムも豊富
旅行会社

グローバル教育センターと国際交流課

グローバル教育センターと国際交流課では、相互に連携し、留学に関心を持つすべての学生を対象にさまざまなサポートを提供しています。学修支援や留学手続きのお手伝いはじめ、海外での生活準備、危機管理の重要性など、留学への疑問や不安に丁寧に寄り添い、一人ひとりに最適な留学プログラムを提案します。

交換留学体験談

[留学先] ラインメイン大学(ドイツ)
[留学年次] 3年次(2024年9月~2025年8月)

ドイツのラインメイン大学への留学を決めたのは、新しい価値観に触れ、自身の可能性を広げたいと考えたからです。日本とは異なる環境で多様な背景を持つ人々と関わることは、将来社会で活躍するための糧になると確信していました。現地では、寮生活や日々の対話を通じて、意見の違いを尊重する大切さを学び、多角的な視点を養うことができました。この経験で得た異文化理解や柔軟な考え方は、将来どのような分野でも必要とされる大きな強みになると考えています。留学には、実際に飛び込むことでしか得られない学びや一生ものの出会いがあります。語学力の向上だけでなく、自分自身を大きく成長させてくれるこの経験は、将来につながる貴重な体験になるはずです。ぜひ一歩踏み出してみてください。



法学部法律学科 沼倉 空 さん <ギリシャで撮影>

オンキャンパス国際交流

東北学院大学では定期的に国際交流イベントを開催しています。留学生との交流を通じて異文化を知ることは、また自分を取り巻く環境や日本文化への理解を深めることにもつながります。



CONVO CAFEと CONVO LOUNGE

CONVO CAFEは留学生とそれぞれの国の言葉で気軽に会話(convo)を楽しむイベントです。CONVO LOUNGEは英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語などのネイティブスピーカーと各言語で会話を楽しむ語学ラウンジです。

グローバルサポーターズと レジデント・アシスタント

グローバルサポーターズは、交換留学生オリエンテーションサポート、国際交流イベントや留学生歓送迎会の企画・運営を行います。レジデント・アシスタント(RA)は、留学生宿舎と一緒に生活をします。どちらも異文化への理解を深める貴重な機会になっています。